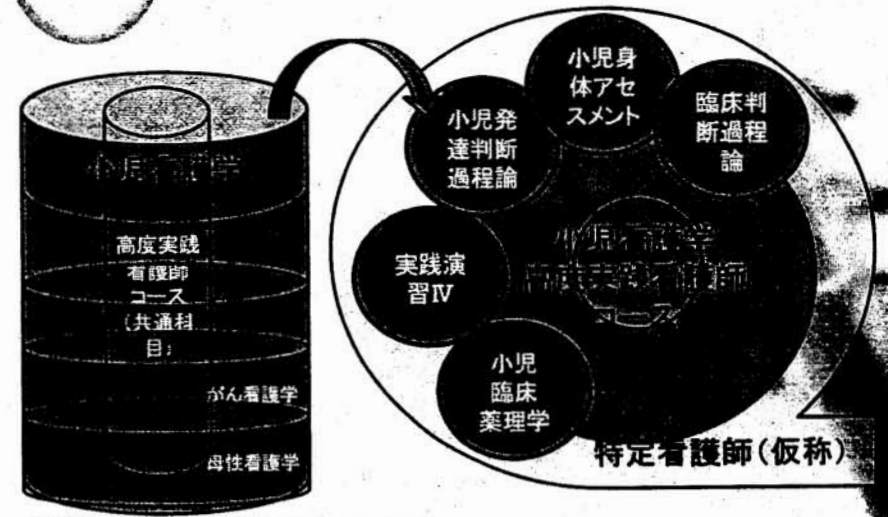


兵庫県立大学大学院看護学研究科
小児看護学領域における特定看護師(仮称)
育成のためのカリキュラム

兵庫県立大学大学院看護学研究科
研究科長
小児看護学 教授 片田 範子
小児看護学 講師 三宅 一代

当学における小児看護学領域の
特定看護師(仮称)養成調査 試行事業の取り組み【概要】



小児を含め11コース設置(内8コースは専門看護師課程として認定されている)

高度実践看護コース(小児看護学)のカリキュラムの変遷

	平成9~18年	19~21年	22年	23年
特定看護師(仮称)養成のための追加科目			小児身体アセスメント研修8日間	小児発達判断過程論 小児臨床薬理学 臨床判断過程論 小児身体アセスメント 実践演習Ⅳ(実習)
専門科目	小児健康生活論・母性健康生活論・小児看護援助論・小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ 実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(実習)			実践看護研究 小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ
分野別共通科目	ベッドサイドの臨床薬理／臨床判断課程論(追加予定) 看護ヘルスアセスメント(フィジカルアセスメントの内容を強化) 看護と保健政策、看護コンサルテーション、看護倫理、看護管理看護教育等 看護学共通科目(実践看護論、看護学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 看護学関連教養科目(哲学的人間論、臨床疫学等)			

教養科目	哲学的人間論、臨床疫学等	4	60		
共通科目	実践看護論、看護学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	4	60		
分野別共通科目	看護と保健政策、看護コンサルテーション、看護倫理、看護管理看護教育、ベッドサイドの臨床薬理看護ヘルスアセスメント	8	120		
	臨床判断過程論			2	30
専門科目	小児健康生活論・母性健康生活論・小児看護援助論	6	90		
演習	小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ 看護実践研究 小児身体アセスメント・小児発達判断過程論	6	180 (+120)	2	60
検討科目	小児臨床薬理学・小児臨床判断過程論			4	60
実習科目	実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6	270		
	実践演習Ⅳ			2	90
	計 45単位(810時間以上)	34	780	+11	+240

どのような場で活躍する
特定看護師(仮称)を考えているか①

- ◆ がんをもつ子どもへの症状コントロールに向けた生活指導と薬剤投与
 - 1) 痛み緩和のための薬剤投与
 - 2) 化学療法・放射線療法・骨髄移植中の有害事象管理と応急処置
- ◆ 外科系の手術を受ける子どもへの痛み緩和を含めた症状コントロールに向けた生活指導と薬剤投与
- ◆ 在宅治療を継続している慢性疾患をもつ子どもの症状コントロールに向けた生活指導と病状説明、親から子どもへの医療的ケアの移行の判断とその指導
- ◆ 小児救急外来におけるトリアージ

5

どのような場で活躍する
特定看護師(仮称)を考えているか②

- ◆ 総合病院における子どもの痛みコントロールを含めた統合的アセスメントから必要な薬剤の使用やケアを提供し、子ども家族の生活調整、回復力の促進
- ◆ 訪問看護における子どもの症状マネジメントと必要な薬剤の使用や生活指導
- ◆ 救急外来におけるトリアージと初期治療の判断ができ、子どもの早期症状緩和と1次救急受診の母親への育児等の予防を含めた指導

6

特定の医行為を習得するための実習(実践演習Ⅳ)
とその他の科目の関連

小児健康生活論
母性健康生活論
小児看護援助論
実践研究
小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ
・小児発達判断過程論
・小児身体アセスメント

実践演習Ⅰ(実習)
複雑なニーズを持つ小児と家族に対して質の高い看護を実践する。解決困難なケースの問題の本質を分析して、小児や家族への直接的ケアに関わる。

実践演習Ⅳ(実習)
複雑なニーズを持つ小児と家族に対して質の高い看護を実践する。そのために必要となる特定医行為を含めた子どもの状態を判断する能力ならびに必要なスキルを獲得する。

小児臨床薬理学
臨床判断過程論

分野別共通科目

2010年度小児身体アセスメント研修【詳細】

実施期間:平成22年9月2日～5日、9月9日～12日
実施内容:8日間(講義、演習)

講師:Dr.Karen Duderstadt,米国

University of California, San Francisco
兵庫県立大学看護学研究科特任教授(申請中)
CNS, NPを含むAPN育成の経験をもつ

目的:増設検討科目として、今後日本で必要となる教育内容の
化と講義演習内容、人材の検討
大学院生と現CNS受講希望者への学習環境の提供

8

講義の内容(40時間)

- ◆ 小児高度実践看護師としての身体検査の業務範囲
- ◆ 高度実践看護師としての小児のアセスメントと判断と既往歴の聴取
- ◆ 身体のアセスメント(頭・耳・鼻・喉)
- ◆ 小児身体検査(包括的身体検査技術)
- ◆ 臓器別アセスメント
- ◆ 皮膚系、呼吸器系、心血管系、消化器系と腹部、筋骨系、
- ◆ 小児泌尿器系、小児神経系、精神系
- ◆ 心雑音の聴取
- ◆ 栄養アセスメント
- ◆ 発達アセスメント
- ◆ 筋骨系の成長発達
- ◆ 思春期の精神アセスメント
- ◆ 嚥のスクリーニングツール
- ◆ 子どもをモデルにしてのアセスメント
- ◆ 身体検査技術のまとめとAPNの技術と臨床実践への統合

9

演習の内容(50時間)

- ◆ ケースシナリオと既往歴聴取の演習
(様々な発達段階の事例が提示され、必要な問診の内容と聞き方を根拠を含めて考えディスカッションを行う)
- ◆ 消化器系アセスメント、栄養歴の聴取をパートナーとチェックリストにそった確認
- ◆ 心血管系と呼吸器系、鼻と喉とのチェックリストにそった確認
- ◆ 既往歴聴取
- ◆ 皮膚の耳のアセスメントとパートナーとのチェックリストの確認
- ◆ 筋骨系と反射、小児整形の14点の検査目のアセスメントとパートナーとのチェックリストにそった確認
- ◆ 神経・脳神経アセスメントとパートナーとのチェックリストの確認
- ◆ 小児の発達検査
- ◆ 小児の発達検査に必要な機器の使用法トレーニング
- ◆ 視聴覚教材を利用した履歴聴取、ヘルスアセスメントの自己学習
- ◆ 視聴覚教材を利用した心臓・肺・腹部の聴取トレーニング
- ◆ モデルを使用した統合的シミュレーショントレーニング
- ◆ 実際の子どものヘルスアセスメント

10

ベッドサイドの臨床薬理(2単位)

非常勤講師(医師)2名で担当

(講義内容)

- ・ 症状を緩和する薬剤を中心とした薬物の分子構造・薬物動態・用法とその根拠、薬物動態・代謝、排泄について
- ・ 主な治療に用いられる薬剤
- ・ 消化器疾患治療薬・糖尿病治療薬・高血圧治療薬
- ・ 医療薬品添付文書の読み方
- ・ 感染制御と抗生物質
- ・ がんの治療に用いる薬物と副作用軽減のための方策

11

学生の目指す到達レベルについて

- 成長発達を基盤にこどもの心身の反応に対し適切な看護支援を行う上で、医師の包括的指示を受け、治療に伴う生活調整や健康教育を行う。特に小児がん、手術、慢性疾患の領域において症状、精神的苦痛の緩和ケアが提供できる。
- がん、手術、慢性疾患の診療領域において、治療管理、症状マネジメントを医師との協働より促進し、質の高い診療・療養ケアを提供する。外来では定期的な治療やフォローアップを行う患者に対してヘルスアセスメントを実施し、包括的指示による検査、治療の必要性を判断する。必要な診療時間の確保、短時間で効率的な生活指導体制など質の向上に寄与する。

12